

令和七年春の叙勲(消防功勞)

県内の一九名が受章

兵庫消防

発行所
公益財団法人兵庫県消防協会
神戸市中央区下山手通6丁目3番28号
編集発行人 安 満 真 哉

二〇二五年
全国統一防火標語
急ぐ日も
足止め火を止め
準備よし



令和七年春の叙勲伝達式の様子



令和七年春の叙勲が四月二十九日に発令されました。
叙勲の受章者(消防功勞)は、全国で六一九名、うち兵庫県では、元消防団員の方々一九名が叙勲の榮に浴されました。

受章された方々は、永年にわたり国民の生命、身体及び財産を火災等の災害から守るとともに、幾多の災害に対しても、率先して敢然と立ち向かわれ、地域の安全・安心の確保に尽力されました。
また、消防力の強化、充実に努めるとともに、消防の発展に貢献し、社会公共の福祉の増進に寄与されました。
今回の叙勲の伝達式は、令和七年五月二二日(水)に東京都港区のニッショーホールにて執り行われました。
なお、全国の消防功勞受章者数、勲章別内訳及び本県の受章者は次のとおりです。
(敬称略)

兵庫県内受章者(消防功勞)

◎瑞宝双光章
元 神戸市西消防団 団長 高尾 淳
元 神戸市垂水消防団 団長 中西 政嗣
元 朝来市消防団 団長 平野 光啓
元 尼崎市消防団 松風 俊明

叙勲種別	人数
瑞宝中綬章	一名
瑞宝小綬章	三七名
旭日双光章	四名
瑞宝双光章	九九名
瑞宝単光章	四七八名
計	六一九名

(全国消防功勞受章者数)

◎瑞宝単光章
元 香美町消防団 団長 今後 武司
元 西宮市消防団 副団長 因谷 良光
元 尼崎市消防団 副団長 加島 正
元 姫路市姫路西消防団 分団長 北澤 眞一
元 宝塚市消防団 副団長 小西 昌治

元 豊岡市城崎消防団 副団長 田中 護
元 養父市消防団 副団長 中島 英幸
元 西宮市消防団 副団長 灘儀 勢一
元 淡路市消防団 分団長 拜原 建
元 高砂市消防団 分団長 長谷川喜之

元 姫路市姫路西消防団 分団長 藤井 健一
元 香美町消防団 副団長 古家 学
元 川西市消防団 分団長 邊見 八郎
元 西西市消防団 分団長 向野 清繼
元 姫路市姫路東消防団 副団長 山口 明彦

消防関係褒章伝達式

総務省 消防庁



春の褒章伝達式出席のお二人

令和七年春の褒章

令和七年四月二十九日に発令

消防団員として、永年にわたり消防防災活動に献身的に努力し、消防の発展に大きく貢献した方へ授与される藍綬褒章の伝達式が、令和七年五月二八日に東京都千代田区の合同庁舎第二号館(総務省)地下二階講堂にて執り行われ、兵庫県から二名の方が受章の榮誉に輝きました。

なお、全国の消防功勞受章者数、勲章別内訳及び本県の受章者は次のとおりです。
(敬称略)

全国消防功勞受章者数

叙勲種別	人数
紅綬褒章	四名
黄綬褒章	七名
藍綬褒章	九八名
計	一〇九名

兵庫県内受章者(消防功勞)

◎藍綬褒章
現 神戸市須磨消防団 団長 大塚 章生
現 神戸市灘消防団 団長 中本 敏彦

第四四回危険業務従事者叙勲が 令和七年四月二十九日に発令

二二名の兵庫県内元消防職員の皆様が消防功勞で受章

消 防 関 係 叙 勲 伝 達 式

総務省 消防庁



第四四回危険業務従事者叙勲伝達式出席の皆様

第四四回危険業務従事者叙勲が、令和七年四月二十九日に発令され、伝達式が五月二〇日（火）に東京都港区のニッショーホールにて執り行われました。

叙勲の榮に浴された方々は、消防職員として国民の生命、身体及び財産を火災等の災害から守るため、永年にわたり著しく危険性の高い業務に精励するとともに、消防力の強化、充実に尽力され、消防の発展に貢献し、社会公共の福祉の増進に寄与されました。

なお全国の消防功勞受章者数、勲章別内訳及び本県の受章者は次のとおりです。

（敬称略）

（全国消防功勞受章者数）

瑞宝双光章	三二七名
瑞宝单光章	三〇九名
計	六二六名

兵庫県内受章者（消防功勞）

◎瑞宝双光章

元 加古川市

消防監 竹田 隆幸

元 北はりま消防組合

消防監 中嶋 利久

元 三田市

消防監 平阪 義弘

元 姫路市

消防監 堀 博文

元 西はりま消防組合

消防監 森谷 泰昌

元 神戸市

消防監 八木 清民

元 尼崎市

消防監 山田 久雄

元 丹波篠山市

消防司令 大内 俊也

元 姫路市

消防司令 大塚 英二

◎瑞宝单光章

元 丹波篠山市

消防司令 大内 俊也

元 姫路市

消防司令 大塚 英二

安全功勞者

総務大臣表彰

安全功勞者総務大臣表彰は、「安全思想の普及徹底又は安全水準の向上のため、各種安全運動、安全のための研究、もしくは教育又は災害の発生防止もしくは被害軽減に尽力し、又は貢献した方々の士氣高揚を図る」という趣旨のもと、消防職員や団員を除く個人・団体を受賞対象として行われている表彰です。

【安全功勞者総務大臣表彰（団体の部）】
丸山地区防災福祉コミュニティ
（神戸市）
戸ノ内自主防災会
（尼崎市）

元 加古川市	消防司令 岡本 一郎	元 美方郡広域事務組合	消防司令 阪本 守
元 西はりま消防組合	消防司令 小田 勇	元 西宮市	消防司令 丹治 壽男
元 尼崎市	消防司令 倉本 博幸	元 南但広域行政事務組合	消防司令 中田 秀泰
元 西宮市	消防司令 糺野 智之	元 芦屋市	消防司令 瀬本二三夫
元 北はりま消防組合	消防司令 越前 昌裕	元 西はりま消防組合	消防司令 福田 賢二
元 明石市	消防司令 後藤 素之	元 姫路市	消防司令 森本 克也

消防関係総務大臣表彰式

総務省 消防庁



消防関係総務大臣表彰



実技講習開始前整列



放水訓練



簡先の結合実習



ホースの取り扱い説明

七月一二日(土)、女性消防団員技術研修会が兵庫県立広域防災センター消防学校において開催され、女性消防団員等総勢五十三名が参加しました。

この研修会は、女性消防団員の知識・技術の向上を図り、消防団活動の活性化を推進するため毎年開催しているもので、今回は、小型ポンプ操法の基礎を学んでいただく内容で実施しました。

研修会当日は朝から気温が高かったこともあり、予定していた屋外ではなく、小型ポンプを起動させない屋内訓練場での実習を中心に内容を変更して実施。講堂で過去の全国消防操法大会の映像を視聴したのち、同大会で過去に何度も好成績を収めている福崎町消防団の元団長をはじめ総勢六名のスタッフが講師とな

り、消防ホースの延長・連結、簡先の装着から実際の放水までを体験しました。

最初はおそろのおそろの器具に触れていた団員も、講師や消防職員から取り扱いの指導を受けるうち徐々に慣れてきた様子で、実際の放水の際には二人一組となり、火事場での放水の際の注意点を講師から受けながら、真剣な眼差しで実技講習に取り組みでいました。

研修会後のアンケートでは、「ホースを延ばしたり、連結させたり、水出しをしたり、普段の活動ではできない

ことばかりで、勉強になりました。」や「女性消防分団は消火活動には携わりませんが、定期的に参加する事で消火・防災等の啓発へ繋げていけるようにしていきたい」と改めて思いました。」などのご意見をいただきました。

(※当日の様子は協会HPで動画を公開)



令和七年度 兵庫県女性消防団員技術研修会開催！

令和七年度 兵庫県消防協会 役員一覧

今年度の当協会の役員が決定いたしましたので、ご紹介します。

令和七年度定時評議員会及び令和七年度第二回理事会については、五月二六日(月)に開催され、伊丹市消防団久保団長、加古川市消防団樋口団長、三木市消防団筒井団長、太子町消防団田中団長、丹波市消防団青木団長、南あわじ市消防団井上団長が新たに副会長に就任しました。

また、理事には明石市消防団藤田団長、加東市消防団植田団長、宍粟市消防団松本団長、淡路市消防団中野団長の就任が、監事には多可町消防団森本団長、上郡町消防団井上団長の就任が決議されました。

当協会の運営について、今後とも引き続きご支援・ご協力賜りますよう、よろしくお願いたします。(敬称略)

・会長		川西市消防団	安満 真哉
・副会長		神戸市西消防団	穴田 泰久
・理事		伊丹市消防団	久保 善一
		加古川市消防団	樋口 満
		三木市消防団	筒井 悟
		姫路市姫路東消防団	坂本 信嘉
		太子町消防団	田中 繁幸
		豊岡市城崎消防団	椿野 仁司
		丹波市消防団	青木 則明
		南あわじ市消防団	井上 英樹
		神戸市水上消防団	渡邊 真二
		明石市消防団	藤田 次男
		加東市消防団	植田 竹吉
		神河町消防団	藤原 朋訓
		宍粟市消防団	松本 二郎
		養父市消防団	井上 浩一
		淡路市消防団	中野 大
		尼崎市消防団	上岡 良照
		多可町消防団	森本 博之
		上郡町消防団	井上 誠
		・常務理事	兵庫県消防保安課長 中嶋 嘉彦
		・名誉会長	元伊丹市消防団 岸谷 義雄
		・総裁	兵庫県知事 齋藤 元彦
		・副総裁	兵庫県副知事 服部 洋平
		兵庫県防災監 池田 頼昭	



樋口団長 代表受領

兵庫県において、県政の発展に貢献し、その功績が特に顕著な方を表彰する兵庫県功労者表彰式が、令和七年五月三〇日(金)、ホテルオークラ神戸にて挙行されました。

表彰は全三二功労、二一八名が受賞され、表彰状及び副賞として銀杯が贈呈されました。

そのうち消防功労では、六名が受賞され、消防功労の受賞者は次のとおりです。

【消防功労】
前丹波篠山市消防団
団長 田中 一裕
赤穂市消防団
団長 中村 裕彦

賞者を代表して加古川市消防団の樋口満団長が齋藤知事から表彰状を授与されました。

なお、消防功労の受賞者の方々は次のとおりです。

加古川市消防団
団長 樋口 満
高砂市消防団
団長 三好 啓一

前尼崎市消防局
局長 小山 寛之
前明石市消防局
局長 吉田 優

令和七年度 兵庫県功労者表彰式挙行



県幹部と受賞者の方々

救急安心センターひょうご (#7119)を7月11日9時より 全県で開始しました。

救急車を呼ぶべきか迷った時や、どの医療機関をいつ受診すればよいかわからない時に、24時間365日、相談無料(通話料自己負担)でいつでも受け付ける短縮ダイヤルです。

緊急を要すると思ったら迷わず119番に電話してください。

市外局番が「06」「072」の固定電話、IP電話などからかける場合は、直通番号におかけください。

短縮：#7119 (シャープナナイティキュー) 直通：078-331-7119



コールセンターの様子

急な病気やケガ…

救急車を呼ぶべきか迷った時や、どの医療機関をいつ受診すればよいかわからない時に、24時間365日、相談無料(通話料自己負担)でいつでも受け付ける短縮ダイヤルです。

救急安心センターひょうご

シャープ ナナ イチ イチ キュー

#7119

2025年7月11日(午前9時)から 兵庫県全域で#7119が利用できます

救急車を呼ぶべきか迷った時や、どの医療機関をいつ受診すればよいかわからない時に、24時間いつでも相談を受け付ける短縮ダイヤルです。

直通ダイヤル
078-331-7119

※IP電話及び市外局番が06または072の固定電話等からは、直通ダイヤルにおかけください。

救急医療相談
緊急性や受診の必要性についてアドバイス

医療機関案内
受診可能な医療機関の案内

救うことができる命を守るために
#7119をご利用いただき、地域の頼りた医療資源である救急車の適正利用にご協力ください。

救急安心センターひょうご運営委員会(構成：兵庫県と県内全ての市町)

救急安心センターひょうごポスター

消防団ピックアップ

『消防団活動の活性化へ向け』 相生市消防団

相生市（人口二六、七九六
人、面積九〇・四〇平方キロ
メートル）は、東西に八キロ
メートル、南北に二〇キロ
メートルと細長く、南は風光
明媚な瀬戸内海国立公園の一
部を含む地域です。

造船業を中心とした工業都
市として発展してきましたが、
現在は人口減少などの諸問題
があり、社会変化に対応する
まちづくりを展開しています。

相生市は冬になると牡蠣の
生産の最盛期になります。通
常、カキは食べごろになるま
で二〜三年を要しますが、相
生湾で育つ「相生かき」は種
付けから約半年で、出荷でき
るまでに身が大きく育ちます。
その大きな理由は、相生湾

が、氷ノ山等の山々の栄養分
をたっぷり含んだ雨水が「揖
保川」と「千種川」の二本の
川から注ぎ込む、養分が大変
豊富な漁場であるからです。

一年で大きく育つカキは、
殻いっぱいに入り、純白
でぷりぷりとした弾力があり、
栄養をたっぷり食べて育って
いるので、加熱しても身が大
きなまま、縮みにくいことで
好評です。

また、味も濃厚でカキ特有
の甘みと風味が絶品と名高く、
一度食べて頂ければやみつき
になること間違いなしです。

相生市消防団の構成は、団
本部、一五箇の分団を擁しC
D1ポンプ車一台、可搬積



出初式車両行進

【相生市消防団活性化への改 革検討委員会】

また、出動報告書の作成も
アプリに入力することで、今
までの煩雑だった報告書の作
成を簡素化し団員の負担の軽
減につなげています。

システムには、出動場所の
地図を即時に送信、水利情報
もアプリの地図に記載するこ
とで活動の迅速性の向上を
図っています。

【消防団活動支援システム導入】
これまで消防団の出動は電
話連絡、メールによる出動を
行ってきましたが、令和七年
五月に消防団活動支援シス
テムを導入し、アプリでの出動
指令を一〇月からの本格運用
に向け試験運用を行っていま
す。

『「夢のある町 夢前町」 —地域防災力向上を目指して—』

姫路市夢前町消防団

夢前町消防団は、姫路市の
北部に位置する「夢のある
町」夢前町の消防団です。

自然豊かな街並みの夢前町
は、中心を流れる清流、夢前
川・菅生川の上・中流に開け、
古くから開けた塩田温泉など
風光明媚な観光資源に恵まれ、
重要文化財を所蔵する弥勒寺
（みろくじ）、国の史跡の置
塩城遺跡（おじおじょう）な
ど、貴重な歴史的文化遺産も
数多く点在しています。

北に目を向けると日本三彦
山の一つであり、修験道の地
である雪彦山がそびえ、登山
やロッククライミングの名勝
地となっています。

姫路市の消防団は八団七二
分団あり、その中の一つであ
る姫路市夢前町消防団は、一
本部七分団で構成され、地域
防災の要として、自然豊かな
夢前町を災害活動はもちろん

社会情勢が変化していく中
で、相生市消防団を円滑かつ

効果的に運営していくため、
適正な消防団車庫及び消防団
車両の配置を検討するととも
に大規模災害発生時の相生市
消防団員の初動体制を確立す



自主防災組織訓練



出初式一斉放水

のこと、防災意識の普及啓発
など幅広く活動しています。

訓練をご紹介しますと、四
月の新人消防団員教育訓練を
はじめ、出水期を迎える六月
には水防訓練を実施する他、
各分団ごとに放水や資器材取
扱い訓練を実施し、団員の知
識・技術の向上を図っていま
す。

八月に行われる「夢前ふる
さと祭り」では、地域一体と
なって祭りを盛り上げるとと
もに参加者や町民の安全確保
を担っています。

また、雪彦山では、山岳会
や警察・消防が連携した雪彦
山遭難対応合同訓練に参加し、
負傷者の捜索や救護、搬送活
動など、各関係機関との連携
強化に努めています。

さらに、各地域の自主防災
訓練では様々な分野で積極的
に指導にあたり、未来ある小

ることを目的として、相生市
消防団車庫の配置及び仕様、
相生市消防団車両の配置及び
仕様、大規模災害時における
消防団員の活動に関すること
を話し合い、消防団の活性化
へ向け取り組んでいます。

学生にも消防団活動の素晴ら
しさを知ってもらうため、積
極的に地域に密着した活動を
行い地域住民の防災力向上に
努めています。

一例としては、応急手当指
導員の資格を持つ団員を中心
に、心肺蘇生法をはじめとす
る応急手当の指導を行うほか、



放水訓練の様子



小学校における出前講座の様子

小学生を中心とした子供たち
に楽しみながら「生きる力」
を育む防災教育にも積極的
に取り組んでおり、消火器の取
り扱い訓練や煙体験、消防団
員による放水訓練等を通じ、
小学生の防災意識の高揚、消
防団員のカッコよさをアピー
ルしながら、将来の消防団員



放水訓練の様子

候補の育成に尽力しています。
最後に、近年、団員数確保
が難しい時代となっています
が、夢前町消防団は、地域防
災の要として、団員全てが
「夢のある町」に誇りを持ち、
「夢のある町」の消防団とし
ての使命感を持って活動しま
す。

われら若手消防団員

～消防団に入団して～

三木市消防団
団員 高松 尚生

私は就職して一年が経った令和
六年四月に、三木市消防団に入団
しました。まだ入団して一年ほど
の新米団員ですが、消防団の一員
になったことは自分にとって大き
なプラスになっていると実感して
います。

正直なところ、入団前は「自分
の時間が削られるのではないか」
「果たして自分に務まるのか」と
不安もあり、あまり前向きな気持
ちにはなれませんでした。そんな
中、地元の消防団で長年活動され
ている先輩から、「地元で災害が
起きた時に、何もできずに見てい
るだけではないのか？一緒に消防団
の一員として、少しでも地元のた
めに動いてみないか？」という言

葉をかけていただきました。その言
葉や、地域のために活動されている
姿を目にし、入団を決意しました。
まだ実際に火災や災害対応の現場
に出動した経験はありませんが、地
域の防災訓練や年末警戒などを通し
て、地元に貢献できていることに大
きなやりがいを感じています。また、
幅広い世代の団員の方々と関わる中
で、多様な価値観や考え方に触れる
ことができ、人としても成長でき
ていると感じています。

地域のつながりが希薄になりつつ
ある今だからこそ、消防団の存在は
非常に重要であり、大きな意味を
持っていると思います。そのような
活動に携われていることに誇りを持
ち、責任感と使命感を持って取り組
んでいきたいです。

そして、先輩方が築いてこられた
経験や知識を、次の世代である私た
ち若手がしっかりと受け継ぎ、未来
へつないでいけるよう努めていき
たいと思います。

わが町の団長さん

「消防団員の使命と矜持」

神戸市兵庫消防団

道林 幸次



兵庫消防団は、神戸市のほぼ中心に位置する兵庫区を管轄しており、現在六分団、団員数約一六〇名で構成されています。同団では、地域ごとの防災訓練を非常に活発に行っており、大規模・同時多発災害時に兵庫消防署や地域住民と一体感をもった行動ができるかを意識した活動をしています。

その兵庫消防団に令和六年四月に就任されたのが道林団長です。道林団長は、父、本人、長女の親子三代の消防団一家で、お父様は阪神・淡路大震災の翌年、平成八年四月に兵庫消防団長に就任され、二期八年の在任中にいち早く救急インストラクター（応急手当普及員）の大量養成を神戸市内の消防団に取り入れた功労者です。道林団長も就任後の多方面への精力的な団員募集活動に尽力され、四〇名近くの欠員が一挙に充足し、消防団に活気を取り戻されました。

お父様の団長就任と同時に入団した当時から、一〇数年先を見据えた言動に、団員だけでなく地域住民からも頼

れ、裏表のない真摯な姿勢から多方面の関係者に信頼を寄せられています。

また、団本部運営においては自ら先頭に立ち、訓示等では常に団員としての使命や自覚を教え、やり甲斐に繋がる矜持を持たせた実績は、唯一無二の存在です。

「誰もが安心して暮らせていけるまちへ」

高砂市消防団

砂川 秀一



高砂市は、南部に瀬戸内播磨灘、北西部には播磨富士と呼ばれる高御位山、東部には一級河川の加古川があり、

海・山・川と自然豊かな一面

もあります。また、結婚式やめでたいときに謡われる謡曲「高砂」と平和と長寿の象徴である「尉と姥」のいわれの発祥の地でもあり、歴史的な文化も混在しています。

近年は、「兵庫県の歴史的景観形成地区」に指定されたのをきっかけに始まった「たかさご万灯祭」や、高砂市の活性化を目的として、音楽に合わせて色とりどりのレーザー光線と火花が夜空を飾る「ナイトファンタジーリユージョン」も人気を博しています。

団本部及び七分団、六〇九名で構成される高砂市消防団を率いる砂川団長は、昭和六一年に高砂市消防団に入団、平成二八年から分団長、副分団長を歴任され、令和七年四月に団長に就任されました。就任以降、若手団員対象に実施していた訓練を全消防団員対象に切り替え、いつ発生するか、どの団員が出動できるかわからない現場に備え、各自が考え素早く対応できるように意識した消防団員訓練（火災想定、資機材取扱等）

を実施しています。

温厚な性格で責任感が強く、人との和を大切にしている砂川団長は、団員からの信頼も厚く、地域との連携も深めながら、高砂市消防団の発展と強固な組織づくりに尽力されています。

砂川団長を中心に、誰もが安心して暮らせていけるまちづくりに貢献できるよう高砂市消防団は一致団結し、地域に密着した活動を実施していきます。

「消防団長としての鍛錬道」

淡路市消防団

中野 大



淡路市は、兵庫県南部に位置し、自然と歴史が調和し、訪れる人々に心温まる体験を提供できる魅力あふれる街です。淡路牛や淡路玉ねぎ、新鮮な海の幸が豊富なことで、古代より「御食国」と呼ばれ、本州と淡路島を結ぶ北の玄関口としても知られています。特に最近注目の観光スポット「西海岸」は、週末には島外からの観光客で賑わっています。

淡路市消防団は、平成一七年の淡路市誕生と同時に発足し、本部をはじめ現在では二四分団、団員数一、五〇〇名の組織で消防活動を行っています。

中野大（なかの ふとし）

団長は、豊富な経験と実績、そして人望の厚さにより推挙され、この春より第七代淡路市消防団長に就任されました。

団長は、趣味の一つである少林拳法を通じて、地域の子どもたちへの指導や体力・

精神力の鍛錬に励み、緊急時にも冷静かつ的確に行動する力を身につけられています。

さらに、歌とお酒をこよなく愛し、地域との交流を大切にされています。

また、近年発生が予想される南海トラフ巨大地震や全国

的に多発する災害に目を光らせ、地域の安全と安心を守るために奮闘されています。

今後は、地域社会を団結させ、安心感たっぷりの環境を作り上げる中心的存在として活躍されることをご期待いたします。

広報部から地域へつなぐ 防災力と救命の輪

三田市消防団広報部 団員 杉森 美香

私は普段、小学校で働いており、兵庫県学校災害支援チーム「EARTH」としても活動しています。防災や救命について授業する中で、子どもだけでなく、地域の大人と一緒に知識を蓄えることが、地域の防災力に繋がるのではないかと考えていた時に、「三田市消防団広報部（以下、「広報部」）」の存在を知り、地域への救命知識普及に魅力を感じて入団しました。広報部は、平成二四年に発足した「三田市消防団女性班」が、災害現場以外の活動を主として行うことを目的として令和五年に改編された組織で、

現在は大学生、社会人、主婦など幅広い層の一三名が在籍しています。

主な活動は、市内幼稚園や企業の防災訓練、地域イベントでの CPR（心肺蘇生法）普及などで、私の初めての活動はショッピングモールでの救急フェアでした。当初、関心を持つ人がどれだけのいるのか不安でしたが、広報部員の呼びかけにより多くの方が足を止め、胸骨圧迫や AED の使

い方を体験してくれました。

特に小さいお子さんが「やってみたい」と一目散に走って来るのを見ると、小さい頃から身近に救命の知識があり、興味がある間に体験することで、年齢に応じた救命の仕方を学ぶ大切さを感じました。

広報部の活動を通じて地域の防災力が向上すれば、救える命が増えたり、大規模災害時の共助の力の強い地域コミュニティにつながるはずです。この願いを胸に、これからも消防団として、活動していきたいと思っています。



「三田市消防大会」にて